



2025年(令和7年) 第2号



過去の災害を学ぶ

6月に起きた

過去にあった災害から注意すべきことを学びましょう。

平成 11 年 6 月豪雨災害(1999 年)



1999 年(平成 11 年)6 月 29 日、梅雨前線の影響による集中豪雨が中国地方を襲い広島県では広島市や呉市など各所で土石流や崖崩れが発生、死者・行方不明者 39 人、浸水家屋が約 20,000 棟にのぼる大きな被害となった「平成 11 年 6 月豪雨災害」が発生した。中国山地の南斜面に位置する広島県は、面積の約 70 %が山地で、花崗岩類や流紋岩類が広範囲に分布している。花崗岩は風化を重ねると、もろい「まさ土」となり、深い層まで風化が進んでいる場合には、滑落や崩落することが多く、土砂災害の

要因となっている。広島市西部や呉市の山の斜面には、このまさ土が堆積しており、今回の土砂災害の多くは、風化したまさ土が大雨で泥状化し、岩盤上を一気に流れ落ちたことによるものであった。また、広島県の森林は約 3 分の 1 がアカマツで、近年は松食い虫の被害による松枯れがひどく、土壌はより不安定となっていた。住宅地の裏山などでも枯死した松が随所に見られ、土石流はこれらの木々を巻き流れ下り住宅地を襲ったため、被害がさらに拡大したものと見られています。

知識
として..

★「内水氾濫」や「河川洪水」とは？

内水氾濫とは、大雨や集中豪雨により、下水道や排水路などの排水能力を超えて雨水があふれ出し、浸水が発生する現象のことです。都市部で起こりやすいことから、都市型水害とも呼ばれます。

河川洪水とは、大雨や融雪などによって河川の水量が増加し、堤防を越えたり、堤防が崩壊したりして、水が河川敷や周辺地域に流れ出す現象のことです。

具体的には、以下の 2 つのケースが考えられます。「越水」・堤防の天端(てんば:堤防の上面)よりも水位が高くなり、水が堤防を越えて流れ出す現象です。「決壊」・堤防が水圧に耐えきれず、または浸食によって破壊され、水が流れ出す現象です。



事前に、大雨警報・注意報や自治体の避難指示といった情報に気をつけ、長く続く大雨や集中豪雨の状況から、上流の水位から今いる場所の危険性を予測し、早め早めに避難することが大切です。

●河川の近くにいるときは、**天気や水位の変化に細心の注意を！**

注意点！

★天気の急な変化にいち早く気付く。

○急にくもって空が暗くなったり急に冷たい風が吹いてきたりしたときは、大雨をもたらす積乱雲が近くに発生している可能性があります。積乱雲が発達すると雷を伴って短時間に激しく雨が降ることがあり、河川の急激な増水・氾濫の危険性が高くなります。すばやく河川から離れること。

★河川の水位が上がる前兆とその後…を知る。

○河川の流れが速くなる。 ○水が濁る。 ○木の葉や枝が流れてくる。

…前触れに気づいたら急いで河川の近くから離れ、安全な高台に避難し増水した河川には決して近づかない。

○その場では雨が降っていなくても河川は上流で大雨が降ると急に増水する。

…河原でキャンプなどをする際は、上流の空に黒い雲が見えるなど異変を感じたら安全確保に努める。

★サイレンの音にも注意

○上流にダムのある川では大雨時には一時的に放流量が増えることがあり、このときに放流を予告するサイレン音が流れる。サイレンを聞いた場合は河川には絶対に近づかない。

…河原でキャンプや川遊びをする際には、事前に上流ダムの有無や周辺の各種案内等を確認し天候の状態には常に気を配る。

★雪解けの時期には注意

○流域内の積雪が大量に解けて引き起こされる「融雪洪水」は、4～5月頃に大雨や気温の急上昇などとともにおこることが多いので注意する。

★身を守る…避難行動

○一戸建ての建物の場合、1階に移動する。 ○窓、雨戸、カーテンを閉めて窓際から離れる。

○浸水が50cmを上回る場合(大人の膝上程度)の避難行動は危険です。流れがはやい場合、20cm程度(大人の足首程度)でも歩行が不可能になることもあります。また、用水路などがある場所では転落の危険が高まるため、避難を控えましょう。

○車による避難は、特別な場合を除き控えましょう。車は浸水には強くありません。30cm以上であればエンジンが止まり、そのまま流され、ドアが開かなくなるおそれがあります。



●危険度ごとの行動

警戒レベル 1	災害への心構えを高める必要がある。最新の防災気象情報等に留意。
警戒レベル 2	災害発生の危険度が高まっている状況で、避難行動を確認する段階。
警戒レベル 3	避難に時間を要する人、河川沿いに住む人(高齢者や障害者、乳幼児とその支援者)は避難(高齢者等避難、大雨、洪水警報、氾濫警戒情報、危険度分布「赤色」)
警戒レベル 4	速やかに危険な場所から避難先へ避難(避難指示、土砂災害警戒情報、氾濫危険情報、危険度分布「紫色」)
警戒レベル 5	命を守る最善の行動を(緊急安全確保、大雨特別警報、氾濫発生情報)

※レベル5の段階では、すでに災害が発生していると考えられます。そのため、レベル3や4の段階で避難することが大切です。

※警戒レベルは、必ずしも1から5の順番で発表されるとは限りません。防災気象情報を参考にしながら、適切な避難行動をとりましょう。

※「**大雨特別警報**」。これは、数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合に出されます。

すでにレベル5の状況を指しており、気象庁によると「災害が起きないと思われているような場所においても災害の危険度が高まる異常事態です。速やかに避難を。

今月の取り組み

6月の安全に関する取り組みを紹介します。

★6月10日(火) 登校指導



登校指導は毎月2回実施をしています。今月は3日に3年生の保護者方々が一声運動(あいさつ運動)を兼ねて実施をしていただき、もう一日は運動会の延期にともない10日実施をしました。

今回はあいにくの雨となり、傘をさしての登校です。傘をさして、横並びで歩くと広がってしまい、危険になります。そういった点に配慮をするように呼びかけながら実施をしました。事故にあわないようにいるためにも周囲に気を配りながらの登校が必要です。

★6月27日(金) 避難訓練(集団下校訓練)

今回の避難訓練は、大規模災害や緊急な事故などがおきた際にそなえて、方面別に編成した下校班で集団下校を行う訓練を実施しました。

地震などの大規模災害が発生した時には、下校する通学路の安全の確認を行い、同じ方向に帰る生徒たち同士をグループに編成し教員が引率をして下校をします。

各グループのリーダーは三年生が勤めてくれています。それぞれのグループとも三年生がリーダーシップをとり、整然と活動を行ってくれていました。このような対応をとることがないのが一番ですが、まさかの時のためにしっかりと備えていきたいと思います。



安全指導

6月の安全指導を振り返ります。

★6月23日(月) 安全指導講和① 臨時講和

生徒会朝礼の後に、臨時講和として「SNSの使い方、通学時の行動」についての安全指導を行いました。今回生活指導主任よりSNSについては、卑猥な画像の送ることについてです。その様な画像他の人に送らないことはもとより、そのような画像を撮影しないということをしっかりと守り、健全な使い方をしましょうという話がありました。

また、最近あった自転車との事故の話があり、対応の仕方について注意がありました。事故やトラブルにあった際、きちんとした対応をとることが大切です。心掛けていきましょう。



★6月23日(月) 安全指導講和②



昼の放送では、今月の安全指導として「登下校時の痴漢や変質者などに対する注意や不審者対応の仕方について」のお話が担当の先生よりありました。最近、防犯メールなどで不審者情報などが通知されることが多くなってきました。また、登下校時の生徒が被害にあう場合が多いです。その際には「いかのおすし」(防犯標語)に従い、自分を守る行動をとるようにしましょう。

「**いか**」→知らない人についていかない。 「**の**」→知らない人の車にのらない。
「**お**」→危険を感じたらおおきな声を出す。「**す**」→すぐに逃げる。
「**し**」→何かあったら大人に知らせる。

しっかり
覚え
行動に！

安全を考える

事故などに巻き込まれないためにはどうするか。

●6月にあった事件・事故・災害より・・・

6月18日に東京都内の一部地域で最高気温が35度を超える猛暑日となり東京消防庁によると、18日午前0時から午後9時までの間、東京消防庁の管内で6～98歳の男女117人が熱中症で救急搬送され、90代以上の高齢男性1人が重篤な症状、他の人は中等症か軽症だったとのことです。

また、同日午後0時半ごろに発生した小金井市東町4丁目の住宅火災現場では、消火活動にあたっていた消防隊員3人と団員1人が熱中症の症状を訴え、うち3人が救急搬送されました。

●熱中症にならないためにはどうしたらいいか？

熱中症を予防するためには、暑さを避けること、こまめな水分補給、そして暑さに体を慣らすことが重要です。外出時には日傘や帽子を着用し、日陰を利用して休憩しましょう。室内では、扇風機やエアコンで温度を調節し、こまめな換気を心がけましょう。また、暑くなる前から適度な運動や入浴で体を暑さに慣らすことも効果的です。



○熱中症予防の具体的な対策

- ・暑さを避ける・・・ 外出時は、日傘や帽子を着用し、日陰を利用する。室内では、扇風機やエアコンで温度を調節する。【室温 28℃を目安】天気の良い日は、日中の外出を控える。
- ・水分補給・・・ 喉が渇く前に、こまめに水分を補給する。。スポーツドリンクや経口補水液で、水分と塩分【とりすぎに注意】を補給する。
- ・暑さに体を慣らす・・・運動や入浴で、徐々に体を暑さに慣れせせる。暑熱順化には時間がかかるため、早めに始めましょう。

※暑熱順化とは **体が暑さに慣れることです。暑い日が続くと、次第に暑さに慣れて暑さに強くなる。**

- ・その他・・・通気性の良い、吸湿・速乾性の衣服を着用する。睡眠環境を整え、十分な睡眠をとる。体調が悪いときは、無理をせず安静にする。周囲の人にも気を配り、声を掛け合いましょう。
- ・特に注意が必要な人・・・高齢者、乳幼児、基礎疾患のある人、肥満の人、暑さに慣れていない人。